

はしがき

産業競争力のある企業における人材の確保と育成と維持に関する調査研究

—ものづくり企業、IT 関連企業、及び建設業の比較—

はじめに

1. 研究開始当初の背景

本研究は、産業競争力を蓄えている先端的な企業における「人材の育成」には、いかなる特徴が見られるのかを探ろうとするものである。

付言するならば、複雑かつ高度な社会的要請に应运、優れた業績をあげ続けている企業においては、特別に優れた人材育成のシステムが、長年の試行錯誤を経て、強固に存在しているはずである。しかしそのような認識は、必ずしも有意な方法によって検証されないままに、いわばアブリアリに存在してきたようにさえ思われる。しかし、ここでは、より現実に即して吟味を行うならば、実際にはそのような認識とは異なる現実が存在しているのではないか、という意欲的な仮説に基づいている。このことを先行する若干の企業分析と既存の研究に基づいて、明らかにすることとする。

2. 研究の目的

実態を反映しない説明は、社会にとって有害なことさえ多いと考える。事業の先端を目指す企業にとって、それを担う人材育成をいかに進めるかは重要な課題となっている。加えて経営学としての説明体系にとっても、通説を覆すことのできる事実を捉えることは有意義というべきである。

3. 研究の方法

一定の産業競争力を有する企業においては人材の育成はどのように行われているのだろうか。そこには合理的で、強固な人材育成システムが構築されているものと考えられる。しかしながら、ここではそれを、いかなる構造になっているかを概略として捉えようとする方法とはっていない。アンケート調査によって普遍的な動向を、一挙に平均的な姿で捉えようとする方法は、“一般的で、理解されやすい questionnaires による、単純な回答”方式の調査であるならば、必ずしも現実に近い事実把握は不可能だという認識にも基づいている。

以上のような考え方と研究姿勢に立って、主として、有意義で適切と考えられる企業の事実に触れての「聞き取り調査」、加えて、関連する文献、さらには極めて直近の実態を伝えるメディア情報等に基づいて、調査研究を行った。

4. 研究組織と主な発表論文等

(研究代表者, 研究分担者及び連携研究者には下線)

(1) 研究代表者

平野文彦 (日本大学経済学部・教授)

(Fumihiko Hirano, Professor, College of Economics, Nihon University)

(2) 研究分担者

大森 信 (日本大学経済学部・教授)

(Makoto Ohmori, Professor, College of Economics, Nihon University)

(3) 研究分担者

細沼 藹芳 (SBI 大学院大学 准教授)

(Aiho Hosonuma, Associate Professor, SBI Graduate graduate university)

(4) 連携研究者

島田 裕司 (清水建設株式会社・当時)

(Yuji Shimada, SHIMIZU CORPORATION)

5. 関連研究の学会報告・発表論文等 (計 8 件)

- ① 細沼藹芳『中国民营企业・華為 (ファーウェイ) の人材育成について』(実践経営学会第 57 回全国大会報告, 『実践経営学研究No.6』(実践経営学会, 2014.8.22) 所収
- ② 細沼藹芳『華為に見るビジネスモデルの変革－企業文化と人材戦略への重点移行を見る－』(平野文彦『経営者育成の経営学』(櫻門書房, 2015.3) p.87-96
- ③ 大森信『企業の戦略, 組織, 実践の関係性』(『組織科学』48 (3) 28-39 2015 年 3 月 [査読有り])
- ④ 島田裕司『総合建設会社における人材育成の研究－先端技術開発を担う人材の育成について－』実践経営学会第 58 回全国大会報告 2015.7.15)
- ⑤ 細沼藹芳『華為の成功を生んだ任正非の経営哲学について』(実践経営学会第 58 回全国大会報告『実践経営学研究No.7』(実践経営学会, 2015.8.29) 所収
- ⑥ 平野文彦『産業競争力企業における人材育成－「ものづくり企業」の事例研究』(実践経営学会九州沖縄支部会報告・2015.07.25 久留米大学)
- ⑦ 島田裕司『建設企業における先端技術開発を担う人材育成について』(実践経営学会第 58 回全国大会報告 (『実践経営学研究No.7』2015.8.29) 所収
- ⑧『産業競争力をもった先端企業における人材育成の特徴について－建設, モノづくり, IT 関連企業の比較研究』(実践経営学会第 58 回全国大会報告, 『実践経営学研究No.7』(実践経営学会, 2015.8.29) 所収

研究代表者：平 野 文 彦